

学習内容報告書 フォーマット

学校名	矢掛町立川面小学校
授業者	小林 美南子

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

川面から発信！星田川調べ隊（5年）
矢掛再発見！（6年）

1-2. 学年

5, 6年生
--------

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間
-----------

1-4. 単元の概要

アクティブラーニング型の学習である演劇ワークショップの手法を取り入れた授業を行い、海洋に関する演劇創作を行う。
---

1-5. 単元設定の理由・ねらい

海にあるものや生き物を、児童それぞれの体験や知識に基づいて、身体を使って表現することで「自分たち人間と自然のつながり」について感じ、海に親しむ気持ちを育む。 創作活動の中で自分とは異なった立場や価値観を持った他者を知り、それらを共有・理解するプロセスを体験する。
--

1-6. 育みたい資質や能力、態度

（1）知識及び技能 ○海に関する知識や、海洋問題について理解し、必要な情報を収集することができる。
（2）思考力・判断力・表現力等 ○これまで学習をしてきた知識を人に伝えることができる。 ○自分の考えや思いを身体を通して表現することができる。
（3）学びに向かう力・人間性等

- 自分とは異なる価値観を理解することができる。
- 児童が、それぞれの経験や価値観に基づいて繰り返しの対話を行い、海洋問題にも通じる合意形成のプロセスを自然と体験できる。
- 身近にある川が、海に繋がっていることを感じる。

1-7. 単元の展開（全22時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
① 1 ～ 9	<p>○プロの俳優によるデモンストレーション劇を鑑賞し、この後の学習が「海に関する事」「劇の続きを作ること」である事を理解する。</p> <p>○コミュニケーションゲームを行う。身体表現を通じて、海の生き物を演じたり、他の人の事を観察したりする。</p> <p>○海について知っている事を発表し、それぞれの知識や価値観について共有する。</p> <p>○児童はあらかじめ、5・6年生混合のチーム（15名程度）に分けておく。</p>	<p><b>【指導】</b></p> <p>○身近にある星田川の環境を考えることに関連して、SDGs14.「海の豊かさを守ろう」に関する学習をしていくことを伝える。(1時間)</p> <p>○環境学習センター「アスエコ」による出前授業を受ける。SDGsについての話を聞いたり、カードゲームをしたりすることで、世界で起きている問題を知ったり、自分事として考えたりすることができるようにする。(2時間)</p> <p>○矢掛高校コーディネーターや、やかげ学の矢掛高校生と一緒に、矢掛版のSDGsカードゲームに取り組み、矢掛地域の資源や課題を知る。(2時間)</p> <p>○環境学習センター「アスエコ」による出前授業を受ける。ちりめんモンスターを見つける活動を通して、瀬戸内海の生き物の豊かさを知ることができるようにする。(2時間)</p>
② 10 ～ 13	<p>○「演じる場所・生き物・場面を作ろう！」の項目について記入されたワークシートを配布し、言葉や絵を用いて記入をする。</p> <p>○ワークシートの内容を元に、シーンを作ってみる。</p>	<p>○グループごとにワークシートの続きを完成させ</p>

		る。(2時間)
③ 14 ～ 19	○演劇創作の準備運動として、コミュニケーションゲームを行う。 ○ワークシートを元に作成した台本を配布し、練習をする。	○台本をもとに、動きやアドリブなどを考える。(4時間)
④ 20 ～ 22	○演劇の練習を行う。 ○体育館に移動し、下級生や保護者の前で作った劇を発表する。 ○劇の発表後、振り返りを行い、4回の授業で感じたこと、話し合ったことなどを発表する。	○体育館に付属する照明機材・音響機材を用いる

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

海にあるものや生き物を、児童それぞれの体験や知識に基づいて、身体を使って表現する。  
創作活動の中で自分とは異なった立場や価値観を持った他者を知り、それらを共有・理解するプロセスを体験する。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p><b>【導入】</b></p> <p>○デモンストレーション劇を鑑賞</p> <p>これから、みなさんにお芝居を見てもらいます。みなさんにはこのお話の続きを作ってもらいます。</p> <p><b>【展開前段】</b></p> <p>○コミュニケーションゲーム①</p> <p>『ひとこと自己紹介』</p> <p>時計回りで、一人一言ずつ自己紹介をします。何周かしますが、何を言っても大丈夫です。</p> <p>「私の名前は○○です」「鯖缶の入った味噌汁が好きです」「今朝、玄関に虫がいて叫びました」</p> <p>『目線回し・あいさつ回し』</p> <p><b>【展開中段】</b></p> <p>○コミュニケーションゲーム②</p> <p>『鏡』</p> <p>みなさんは鏡です。動きをマネしてください。</p> <p>（しばらく自由に動いた後、ゆらゆら動いてみて）</p> <p>今みなさんがしている動きは何に見えますか？</p> <p>「こんぶ」「ゆうれい」</p> <p>『歩く・止まる』</p>	<p>この後の学習が「海に関する事」「劇の続きを作ること」である事を理解する。</p> <p>車座になり、一人一言ずつ自己紹介をする。車座になる順番はランダムで良い。自由に発言できる場作りを行なう。指導者はそれぞれに「へえ〜」など、肯定的なりアクションをすると良い。</p> <p>身体を動かす。</p>

<p>教室を歩き回ってください。まんべんなく人がいるようにしてください。一度踏んだところは二度踏めません。</p> <p><b>【展開後半】</b></p> <p>○コミュニケーションゲーム③ 『ナイフとフォーク』</p> <p>2人一組になって、今から出すお題の場면을、声を出さずに作ってください。</p> <p>ナイフとフォーク：手でナイフとフォークを表現する。指でナイフとフォークを表現する。</p> <p>高級料理店のナイフとフォーク：手先を曲げる、微笑む 慣れてきたら4人一組や8人一組で行なう。</p> <p>海：スイカ割り、魚類、水泳などを表現。</p> <p><b>【終末】</b></p> <p>○デモンストレーション劇の続きを考える</p> <p>地球の海に不時着した宇宙人が、宇宙船のエネルギーボールを探すために行く場所はどんなところでしょうか？</p> <p>「貝の中」「クジラの体内」「サンゴ礁」</p> <p>そこにはどんな生き物がいるのでしょうか？</p> <p>「チリメンモンスター」「クジラの心の声」「プラスチックゴミ（レジ袋）」</p> <p>★起こるできごと</p> <p>「死んだサンゴ礁とゴミの中にボールが落ちていて、拾いに行く」</p>	<p>鏡から移行。感覚を開くためのゲーム。</p> <p>周りの事をよく見る。鏡の動きを取り入れて、動いてみてどんな空間に見えるか聞く。</p> <p>チームで表現をする。時間制限を10秒～30秒程度に設定することで、「分からなくても、とりあえずやってみる」という空気を作る。最終的に行った4人～8人程度のチームでその後シーン創作をしていくと良い。出てきたアイデアに対して「どこがポイント？」「あなたは何（を表現していますか）？」と問いかけても良い。</p> <p>児童の表現に対して肯定的なりアクションをすることで、この後の演劇創作でも表現しやすい場作りをする。</p> <p>海に関する学びなので、児童が面白いシーンや役を演じるだけにならないように注意する。展開前段かこの段階で、これまでに学んだ海に関する知識を発表する時間を設け、アウトプットの取っ掛かりとする。</p> <p>宿題としてワークシートを翌日以降に配布し、自分の意見や人の意見を参考にし、起こる出来事（自分が演じたいシーン）と役を書いてもらう。</p> <p>評価点</p> <p>これまで学んだ海に関する知識をアウトプットできているか。（ワークシート・発表・観察）</p>
--	--

### 3. 今回の活動の自己評価

身体を使って表現をすることで、これまでの授業で学んできた海洋教育に対する、言葉では表現できない考えや感情を表出できた。特に、演劇創作をしていく過程で新しく生まれた気づきを劇の中で反映させていくことができた。

また、2チームに分けた事で、自分たちの発表と他チームの発表を比較し、その違いや価値観に基づいてそれぞれ考えることができた。

児童が書いた振り返りには、海洋問題について自分事として捉えられるようになったことだけではなく、演劇を通して、友達と協力して1つのものを自由に創っていく楽しさや、間違えてもいいから全力でやることの大切さなどがあり、演劇を通して人間性が育った部分もあると感じた。

### 4. 今後の課題

海に関する知識の共有や、海洋問題について考えることができたが、「身近にある川（星田川）が海につながっていくこと」に対するイメージを持つことが不十分であった。今後、“川と海が繋がっている”ということ、身体表現を通じたアクティブラーニングの授業の実践によるアウトプットで定着させていきたいと考える。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

事前指導として、SDGs の考え方を学んだり、自分の地域の資源・課題を知ったりしておく、海洋教育の活動に入りやすい。

演じる場所・生き物・場面づくりのワークシートは、次のワークショップまでに個別に時間を取る必要がある。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。